

これが、マウンテンスキュー CHAMPION だ!!!

丸山 遙人

救う動作には電池の力を使わず、自分で部品を調整して救えるようにしている。

救助ボウリスは、重さを考えて軽いプラスチックピンを使って、組み立てた。

全体を通して大変だったこと、直した箇所があり、変えると別の箇所が問題になったりした。山をのぼるとき、バネが難しかった。

救助ボウリスの材質も経済的にも良い。こだわった。

がんばった所、要救助者を救う時、要救助者を、スッと入れ、帰れるのに苦労した。

アイデアポイント

最初は、ボックスを後ろにしてバックアスタートし、後ろから回転させて救う。

工夫、できるだけ軽くお持ち、ダンボールでできている。

要救助者

救うときに、しっかり谷の下に救助ボックスをおろすために、ボルトをおろすような設計。

おもりを強制的に動かすための工夫。

コバネボックスを交換している。

のぼりや、ツルツルにした。

底は、救うときのことを考えてあげた。

ひかかけの高さをいろいろためた。高すぎると入らない。

コードをほどだけ長くするように、下にナリエした。

#0

コントローラー

アイデアポイント

調整したり、良い感じにとりつけてある。良いおもりとして、たのあいた5円玉を使っている。

#1 おもり

山をのぼる時の重心を考慮して、しず調整しながら、おもりをつけた。



#5 救助ボウリス

帰りに要救助者を、落とさないように角度にも配慮。



ひかかけをつけて、良い感じに救って、落ちないようにしている。

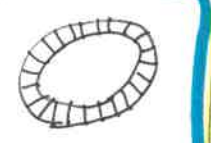
#4 ソリ

山をのぼりおわるときなど、一部がひかかって前に進めないで、ソリを左右2つつけて、スムーズにのぼりまける。



要救助者を救うときにスムーズに、大活躍。アイデアポイント、ソリは、ボルトピンのクリップ部分を使い、はずしたものを使い、やりやすくなっています。

#3 カタピラ



山をのぼっていくのに、対応しやすいように、タイヤではなく、カタピラ。

#2 クロー

山をのぼるとき、ひかけてすいすいとのぼっていく。なかたは、カタピラが山の高さに届かざるぼれないため、大切な役割をしている。



<反省点と今後>

審査の方が「コンプリート」と言われ前にゴール地点に救助者を接地させていました。お父さんが撮影してくれていたアニメーションを撮影すると残り43秒くらいで接地できていました。予戦では出来なかったリライなのでコンプリートでもうれしかったです！自分で判断してはたも良くないですが、審査の方は、ゴール反対側から定点撮影しているのを見えないし、リモート開催は、難しいなと感じました。来年は、コマもおさまり、絶対に本戦を和歌山で戦いたいです。